

受講番号 19002 学校名 室戸高等学校 氏名 秋森 美紗

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 12名
科目名 英語Ⅱ 単位数(授業時数) 2時間 使用教科書名 NEW STREAMⅡ(増進堂)

クラスの様子・特徴

少人数のため全体に目が届きやすく、アットホームな雰囲気である。生徒の学力、進路ともにかなりばらつきがある。明るく真面目な生徒が多く、与えられた課題に意欲的に取り組む。一方、積極的に発言をする生徒は限られており、音声を伴う活動に抵抗がある。

問題の確定

生徒が主体的に「考える」ことができる活動を多く取り入れ、実際に英語を使う場面とのギャップのない指導を目指す。

予備調査

A 授業の観察

全体的に協力的で良い雰囲気だが、活発な生徒と大人しい生徒がはっきり分かれてしまっている。活発な生徒が乗ってくると授業もスムーズに進むが、そうでない時には全体的にあまり効果的な指導ができていないように感じる。生徒自身の活動時間が少ない。

B 生徒による授業評価

英語が(どちらかといえば)「好き」な生徒は58%で、授業に対する評価は概ね良好である。最も時間を割いてほしい活動は「書くこと」で、伸ばしたい力は「話す」と「書く」の合計が過半数を超えている。表現力の向上を課題と考えている生徒が多い。

C 学力データ

年度当初の3000語レベルまでの語彙サイズ測定(望月テスト)の結果では、最高で2167語、最低で1067語と大きな差がある。
英語検定は受験経験すらない生徒が多い中、準2級を取得している生徒や、今年度3級を取得した生徒もいる。

リサーチ・クエスト

自分や、自分の身の回りのことについて表現できるようにするにはどうしたら良いか

仮説・実践・検証

仮説1

自分の行動や気持ちの振り返りができれば、自分を見つめなおすことにつながり、身の回りのことについて表現しやすくなるのではないかと。

実践1

○ 日記を書かせる
「今日あったこと」と「それについてどう思ったか」の2点について、それぞれ1文ずつで良いので書きとめさせた。「楽な気持ちで自分の行動を振り返る」ことに重点を置きたかったため、どうしても分からないことは日本語で書いても良いこととし、毎回コメントをつけて返却するが、特に誤りは指摘しなかった。また、書いた日記を他の生徒の前で発表したり公開したりする活動は行わなかった。

検証1

「自分の言いたいことを、どうやって英語に直したら良いか分からない」という思いが強かったのか、書き出し始めるまでの時間がかりすぎた。また、「日本語可」としたため、日本語のみを書く生徒もいた。主語と動詞に着目させたり、日本語の文を自分で言える範囲の表現に変えたりする練習が不足していたように思う。日記を書かせる前に、文の構成や発想の転換についての指導をして定着させておくべきだった。

仮説2

自分の感情や身の回りのことについての語彙が増えれば、表現しやすくなるのではないかと。

実践2

○ 単語ビンゴ
仮説1で取り組む日記で必要と考えられる感情を表すことばや、学校で開設されている科目の英語名をリスト化し、生徒に配布した。更に、あらかじめ5×5または4×4のビンゴシートを作成し、生徒に持たせた。必要に応じて、授業の導入として日本語を書かせて英語を聞き取らせたり、英語を書かせて日本語で読み上げたりしてビンゴゲームを行なった。

検証2

ビンゴなどのゲームが好きなので、ほぼ全員が積極的に参加した。アンケート結果では、半数近くの生徒が「良かった活動」として挙げており評価は高かった。しかし、ゲーム的要素の方が勝ってしまい、単語を覚えて実際に使えるなど語彙の増強には至らなかった。このことは、12月に行なった望月テストの結果からも窺える。半数が増加(最大で40%)したが、半数が減少(最大で17.5%)し、平均で約7%の増加にとどまった。

仮説3

自分自身に関する質問を投げかけ、それに対する答えを英作させる。それを蓄積していけば、自分自身に関する基本的な内容について英語で表現できるようになるのではないかと。

実践3

○ 自分英作文
授業のはじめに、「何人家族ですか」「週末は何をしますか」というような簡単な質問を毎時間5つ板書して、生徒自身の答えを考えさせた。はじめは日本語で答えを書かせ、それを出来る限り英語に直させる。その後、考えられる返答の仕方を、生徒の意見も聞きながら板書に加えていった。板書をもとに自分なりの返答を英語でプリントに記入して自分作文をストックさせた。

検証3

12月のアンケート結果を見ると、半数が良かった活動とした反面、数名が良くなかった活動として自分作文を挙げており、評価が分かれた。評価が良かった理由としては、「これだけ覚えてある程度自分について表現できるかも」という思いがあったのではないかと。逆に評価が悪かった理由としては、「やっぱり自分の思うことを英語にするのは難しすぎる」と感じたか、プライベートなことを表現するのを嫌ったと考えられる。

研究の成果

仮説1について、単調な内容になることも多かったが「英語の時間に日記を書く＝自分の行動を振り返る」という意識ができてきたのではないだろうか。また、「誰が何をする」という語順も、十分ではないにせよ意識付けられてきた。仮説2では生徒が日記を書くときにリストを活用したり、気に入った表現を口にした様子が見られ、興味付けにはなったようだ。仮説3について、日本語で発想したことばを英語に直すのは難しかったようだが、「これはどう言ったら良いかな」と考えはじめる生徒も出てきたことは、成果であると言える。

今後の授業改善の課題

今回の研修では、最終目標を「自分自身について表現する」ということから、生徒自身のことについて書かせる活動を多く取ってきた。しかし、活動をしていくうちに文構造の理解不足や、語彙の少なさなどの課題が多く見えてきた。来年度以降は、小さなところから順序だてて課題を解決していけるよう、慌てず活動を組み立てていきたい。今後も、子どもたちが少しでも「できるようになった」と思えるような授業を心がけたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0887-22-1155

電子メール